

研 究 紀 要

第 32 号

序 文	田 中 瑩 一	1
研究論文		
国 語 科		
いきいきとした国語学習指導の試み	寺 本 学	3
— 出会いを大切にした俳句指導の工夫 —		
社 会 科		
中学校における地域調査学習について (1)	錦 織 馨	19
— 地理的分野「身近な地域」の構想 —	岩 田 靖	
保健体育科		
長距離走の指導法についての一考察	花 原 良 治	43
学校保健		
教育実習生に対する学校保健の指導の実際と問題点	藤 田 喜久子	55
海外研修報告		
平成元年度海外教育事情視察に参加して	加 田 紀 機	69
作 品		
「晩夏Ⅰ」「パッヘルベルのカノン Ⅰ・Ⅱ」	奥 美奈子	79
平成元年度本校ならびに本校教官の研究活動	研 究 部	81

平成 2 年 3 月

島根大学教育学部附属中学校

序 文

本号には国語、社会、保健体育、学校保健担当の5人の教官による研究論文と、美術担当教官の作品紹介、それに養護学級担当教官の海外研修報告をおさめました。本年度の本校の教育研究の成果の一端としてお読みいただき、御批判たまわればしあわせであります。

論文を書くということは自己の実践を客観的にとらえるということであります。自己の実践を形成的に評価することだと言ってもいいかもしれませんが。その際、大切なことの一つに言葉の問題があります。よく指摘されることですが、教育実践を対象とした研究論文の中には、用語の定義が曖昧なために、対象を十分に分析しきれないもどかしさを感じるものがあると言われます。執筆者の勉強不足や問題意識の稀薄さなどによるのかもしれませんが、研究対象が子供にかかわることであるために、実践の場において子供向けに用いた用語をそのまま無限定に研究用の術語として採用することがあることによるものではないかと私は思っています。体系的な抽象化の未成熟な論文を「実践的」という美名のもとにもてはやす体質をわれわれの分野が持っているとなれば、もう精算しなければならないでしょう。

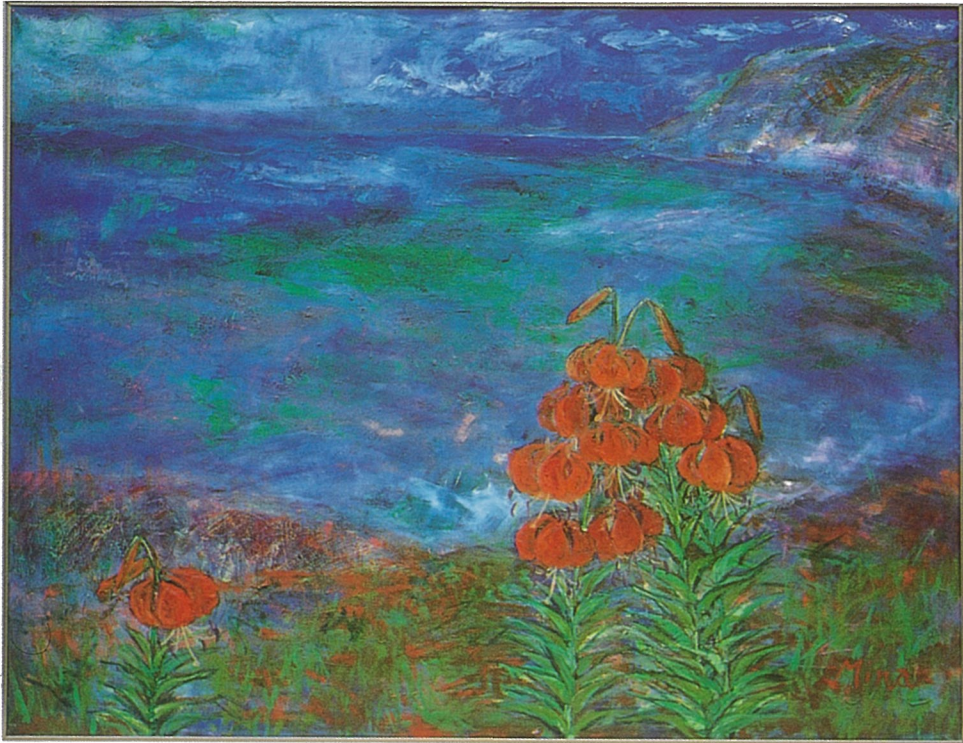
実践の場において子供と教師は特定の親密な関係を持っており、言葉は特に限定を受けなくても場面の状況に支えられて相当豊かな内容を担うことができます。特定の場面において教師も子供もその言葉によってその内容を共有し得たと実感される場合があるでしょう。授業がうまくいったと思われるのはきっとこういうときではないでしょうか。教師は多くの場合、そのような場面をとりあげて論文にまとめるが、その場面で豊かな内容を担っていた自分たちの言葉を信じているがために、それをそのまま無限定に論文用の術語として採用してしまう。ところが論文は場面を共有しない人々の前に客観的な受容を求めて発信される。ここに教育実践の論文が難解になる原因があるのではないのでしょうか。

よく〇〇方式とか△△運動とか、一定の実践方法を集団的に奉ずる現象が教育界のジャーナリズムのようなところを通してあらわれることがあります。そういうグループで読み合われている論文を見ますと、そのグループの理論において柱となる特異な研究用語がちりばめられており、それぞれの意味するところを客観的に定義することに困難を感じる場合がしばしば見られます。逆に言えば、その用語の意味するところを無定義に了解することができた教師だけがその方式を採用することができる、と思われるほどです。確かに多くの実践家によって検証され、互いの成果に学びあって行くわけですから、その方式の実践が一定の成果を収めることはあり得るでしょう。しかしそこでの成功の原因が本当にそのような言葉で構成される理論でとらえられるものによっていたのかどうか、あるいはもっと別の要因によっていたのではないか、私たちは実践をとらえる言葉の問題にたえず鋭敏になっていたいものであります。

平成2年3月2日

島根大学教育学部附属中学校

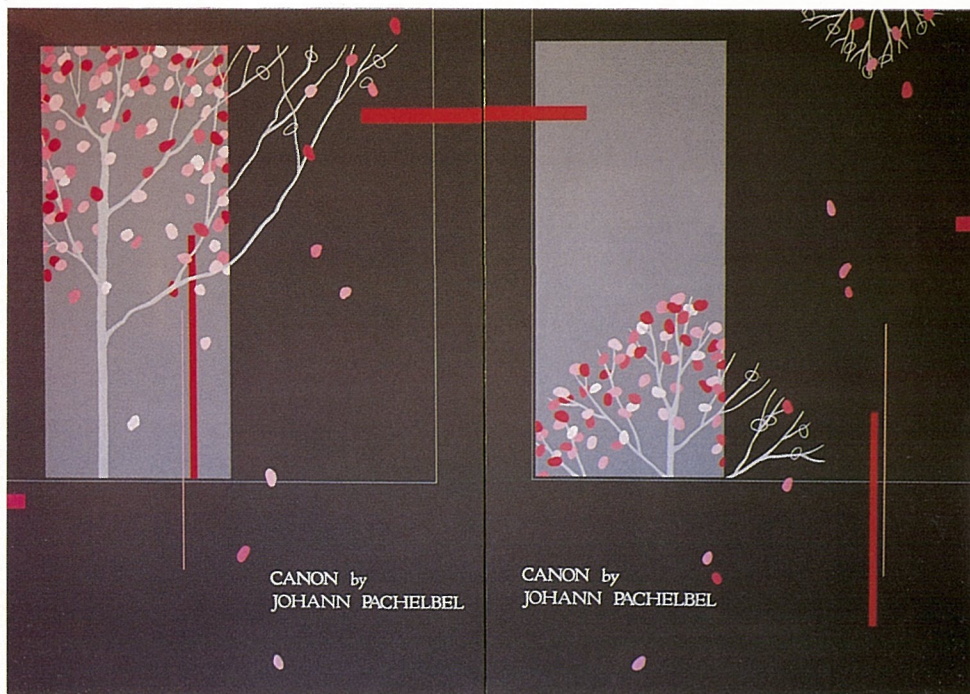
校長 田 中 瑩 一



第69回 朱葉会展 入選作 「晩夏Ⅰ」(F80号)

奥 美奈子

掲載作品は、二点出品した中の一点です。大好きな百合の花をモチーフに、風と音が感じられるような絵がかけたらな、と思っています。



県総合美術展 デザイン部門 銅賞

「パッヘルベルのカノン I・II」

(全判パネル2枚) 奥 美奈子

「パッヘルベルのカノン」の曲をイメージして、平面化してみました。どこからか、音楽が聞こえてくるような、そんな絵がかけたらな、と思っています。

平成元年度本校ならびに本校教官の研究活動

I 共同研究

第32回中学校教育研究発表協議会

- (1) 研究主題 自ら学ぶ力を育てる学習指導 ―各教科における具体的方策をさぐる―
 (2) 期 日 平成元年5月30日(火)
 (3) 講 演 「新教育課程と授業の改善」 大阪教育大学教授 北尾 倫彦 先生
 (4) 全体発表 研究発表(研究の基本構想) 研究部長 山崎 裕二
 (5) 公開授業

時	教科	年・組	単元または題材	授業者
一 校 時	国語	1 - 1	スピーチ会を楽しく	永島 典男
	社会	3 - 3	現代家族の問題(高齢化社会がやってくる)	岩田 靖
	数学	2 - 2	一次関数	西田 修
	数学	3 - 4	三平方の定理	関 稔
	理科	3 - 1	地震(コンピュータを利用した学習)	浜田 裕三
	音楽	1 - 3	リコーダーをきれいに吹こう	藤原 正博
	美術	1 - 2	自然物からの平面構成	奥 美奈子
	保体	2 - 3・4 (女)	器械運動(マット運動)	宮本 夏子
	技術	3 - 2 (男)	電気2(トランジスタの増幅回路)	長沢 郁夫
	英語	1 - 4	英語で話そうナンシーと	平野 謙治
特殊	養護	養護タイム	加田紀機・三島修治 原 宏・小村のり子	
二 校 時	国語	3 - 4	見つめる心	寺本 学
	社会	2 - 4	変わりゆく松江のすがた(身近な地域)	錦 織 馨
	数学	1 - 2	空間図形	奥村 泰磨
	理科	2 - 3	物質と電子	高橋 伸二
	音楽	2 - 2	サンタルチア	田中 義浩
	保体	1 - 3・4 (男)	陸上競技(長距離走)	花原 良治
	家庭	1 - 4 (女)	食事と家族	久我 俊子
	英語	2 - 1	辞書をつくろう(ことばの使い方)	田辺 裕弼
時	特殊	養護	職場実習(進路指導)	原 宏
		養護	附中食堂	小村 のり子

(6) 分科会(研究発表・協議)

教科	研究テーマ	発表者	司会者	助言者
国語	聞き合い磨き合う国語科学習	永島 典男	川津 啓義 (松江教育センター)	足立 悦男(島根大) 田辺 福夫(安来二中)
社会	調査活動を生かした社会科学習	山崎 裕二	米原 範倍 (松江教育事務所)	有馬毅一郎(島根大) 森本 直人(島根大)
数学	「自ら学ぶ力」を育てるための単元構想	関 稔	岡 賑悟 (松江市教委)	伊藤 俊彦(島根大) 富竹 徹(島根大)
理科	課題選択による学習指導	西山 成信	細田 茂樹 (松江教育事務所)	高橋 成和(島根大) 秦 明德(島根大)
音楽	自らの意志による発散を促す自己表現の学習	田中 義浩	石飛 隆雄 (松江教育事務所)	手塚 実(島根大) 三原 重行(島根大)
美術	自己表現力を育てる学習指導	奥 美奈子	寺尾 堂 (浜田教育センター)	石野 真(島根大) 高橋 正訓(島根大)
保体	体育科における選択制授業のとりくみ	藤村 昇	安部 輝洋 (松江教育事務所)	渡辺 悦男(島根大) 久保田康毅(島根大)
技家	課題選択をとりいれた技術家庭科学習	久我 俊子 長沢 郁夫	西山 昇 (出雲市教委)	福間 彰(島根大) 大国 博昭(島根大)
			中野 吟子(県教委)	藤江 奏(島根大) 多々納道子(島根大)
英語	自主研究を取り入れた英語科学習	河西 尚子	嵐 元宏(県教委)	森山 善美(島根大)
特殊	課題解決のための手がかりを工夫した学習指導	三島 修治	横山 康二 (松江一中)	稲浪 正充(島根大) 藤井 恭郎(県教委) 若槻 喜保(松江教育センター)

Ⅱ 個人研究

1. 研究発表(口頭)

- 山崎 裕二 ○「中学校社会科何かがどう変わるか～改訂の展望と課題」第8回島根社会科懇話会研究大会 (於 島根大学) H元. 8. 10
- 浜田 裕三 ○「中学校理科教育へのパソコンの利用」日本科学教育学会 (於 島根大学) H元. 9. 23
- 三島 修治 ○「働く意欲を育てる指導のあり方」中国特殊教育研究大会 (於 米子市) H元. 10. 21
- 長澤 郁夫 ○「電気のわかる道すじ」産業教育研究連盟 (於 松江市) H元. 8. 7
&島根技術科教育研究会 (於 島根大学) H元. 8. 12
- 「『NEW本立て』の実践をとおしての検討」産業教育研究連盟 (於 松江市) H元. 8. 7 &島根技術科教育研究会 (於 島根大学) H元. 8. 12
- 「電気領域と交流学习」産業教育研究連盟 (於 松江市) H元. 8. 9
- 岩田 靖 ○「高齢化の視点からみた内容構成」第22回全国中学校社会科教育研究大会 (東京大会、公民的分野) (於 東京) H元. 10. 20

2. 掲載論文

- 永島 典男 ○講座・単元の構成「人ってなあに —『人の本』の編集—」月刊国語教育研究 (日本国語教育学会) H元. 7. 15
- 浜田 裕三 ○「中学校教育におけるパソコンの利用」教育研究紀要 (島根大学教育学部 附属複式教育研究センター) H 2. 3. 31
- 寺本 学 ○「『聞く力』の育成をめざして —聞き合う国語教室づくりの工夫—」月刊国語教育研究 (日本国語教育学会) H元. 9. 15
- 長澤 郁夫 ○「電気のわかる道すじ」技術教室No.446 (民衆社) H元. 9月
- 「爆発実験装置・変圧器」技術教室No.449 (民衆社) H元. 12月
- 「1石お風呂ブザつき簡易テスト」技術教育実践講座 (ニチブン) H 2. 3月
- 「食品加工にまで発展した野菜栽培」技術教育実践講座 (ニチブン) H 2. 3月

3. 著 書

- 山崎 裕二 ○「身近な地域の歴史の学習～作業的・体験的学習を生かして～」小関洋治編 (明治図書) H 2. 2月

山崎 裕二 ○「中学校社会科 新しい問題解決学習の授業展開」 今谷順重編（ぎょうせい）
錦織 馨 H2. 2月
岩田 靖

三島 修治 ○「新生活単元学習」 小出 進監修 生活単元学習を考える会（代表 若槻喜保）編集（学研） H元. 12. 5

加田 紀機 ○「視聴覚教育の新しい展開」 野津良夫編（東信堂） H元. 11月

4. 作 品

- 奥 美奈子 ○「晩 夏」 朱葉会展 （東京都美術館） H元. 6月
○「パッヘルベルのカノンⅠ・Ⅱ」 県展（デザイン） （県立博物館）
H元. 11月
○「記憶のなかに」 県展（油絵） （県立博物館） H元. 12月

研究紀要 第32号

平成2年3月20日 印刷

平成2年3月20日 発行

発行 島根大学教育学部附属中学校

〒690 松江市菅田町 167 - 1

TEL (0852)23 - 1421

印刷 (有) 黒潮社